

産地戦略

実施期間 令和５～６年度

実施主体 神戸市農業活性化協議会
都道府県 兵庫県
対象地域 神戸市
対象品目 水稲



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

当事業での実証結果を元に作成した栽培体系マニュアルを広く周知することで、水稲における化学肥料の使用量の低減を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		水稲播種	き代移か植	防除	追肥		収穫						
			水管理										
技術名													

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名 （営農アプリによる施肥設計・葉色診断）		水稲播種	施肥設計	き代移か植	防除	葉色診断	追肥	収穫					
			水管理										
技術名		営農アプリ				営農アプリ							

「環境にやさしい栽培技術」「省力化に資する技術」がどの作業工程に取り入れられるのかが分かるように記載してください。

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	2,324	2,300	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	1.2	80	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	1.2	80	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	70.8	80	

取り入れる技術に応じて取組面積の目標等が異なる場合は、行を追加する等で分かるように記載してください。

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	化成基肥肥料	▶ 営農アプリによる可給態窒素の分析を基にした施肥設計	・化学肥料の使用量低減
省力	目視による追肥の要否の確認	▶ 営農アプリの葉色診断による追肥の必要性の有無の確認	・ほ場の見回り回数の減少

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学肥料の使用量低減（kg/10a）	40	▶ 32	現状の化学肥料使用量の2割削減を目指す。
省力	流し込み追肥の見回り回数（回）	1	▶ 0	各ほ場の追肥（穂肥）の要不要を営農アプリにより判断することを目指す。
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

栽培体系マニュアルの配布と併せて、稲わらの耕畜連携による堆肥散布により化学肥料使用量の低減を目指す。

関係者の役割

関係者名	神戸市経済観光局 西農業振興センター	兵庫六甲農業協同組合 神戸西営農総合センター 神出支店	兵庫県神戸県民センター 神戸農林振興事務所 神戸農業改良普及センター	検証協力農家
役割	栽培体系の周知	栽培体系の周知	栽培体系の周知	営農アプリ利用に関する 更なる検証

その他

指標は、以下のとおり設定してください。

- 化学農薬の使用量の低減の場合：使用回数、成分数、使用量、ADIなど
- 化学肥料の使用量の低減の場合：使用量、NPK成分量など
- 省力化に資する技術の場合：作業時間、作業人員、作業工程数など
- 有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの排出削減：省略可（設定した場合も、フォローアップの対象とするかどうかは任意とします）
- 化学農薬の使用量低減、化学肥料の使用量低減の場合も、技術の特性上設定が困難な場合は都道府県知事が認めれば省略可